新型コロナウイルスの影響により、イベント等が中止になる場合があります。市ホームページまたは各問合せ先で確認してください。また、イベント等参加の際は、マスクの着用・検温にご協力をお願いします。

# ～わたしのスポーツストーリー第３回～（不定期連載）

これまでの中でスポーツを通じて感じた喜びや達成感、心に残ったできごとなど、スポーツにまつわるお話を募集しています。ここでは、投稿された作品をご紹介します。

## 「70歳からのランニング」

4年前70歳で仕事を退職して地元ランニングクラブ（聖地化プロジェクト）に入会。もちろん最年長でした。月1回の練習会に参加するようになりました。きっかけは本屋さんで目にした雑誌で、フルマラソン全日本年代別ランキングというものがあることを知り、頑張ればもしかしたら100位以内に入れるかも？と思ったことです。

それから練習、大会含めて月300㎞、年間3,600㎞走りました。そうしたら記録が伸びてランニングが楽しくなり、結果は全国で160位、62位、25位と順位が上がり、73歳となった令和２年も25位になりました。フルマラソンでは初め4時間30分超えだったのが3時間54分まで記録が伸びました。令和元年は久喜マラソン大会ハーフ70歳以上で6位入賞、他の大会でも入賞するようになりました。

令和元年12月からは人材派遣の物流倉庫で、若い人たちと月14日間仕事しています。これもランニングのお陰です。

これからの目標は、ランキング10位以内を目指して、健康に気を付けながら頑張ります。

（久喜市桜田・日野幸雄さん）

## 「あなたのスポーツストーリー」引き続き募集しています！

**投稿条件**　住所・氏名・電話番号・メールアドレス（ある方）・匿名の希望の有無・匿名希望の場合のペンネームを添え、400字程度でまとめて投稿してください。（様式自由）

**投稿方法**　直接または郵送・メールで、スポーツ振興課スポーツ企画係（〒340-0217　鷲宮6-1-1／✉sportsshinko@city.kuki.lg.jp）へ

※投稿作品の著作権は、久喜市に帰属することをご了承ください。

# 連載　久喜歴史だより（第121回）

## 関所番士と神道無念流

直道軒嶋田君墓銘部分（常薫寺）

栗橋関所では、江戸時代を通じて、4つの家から2人の関所番士が交代で出勤してその任にあたっていました。関所番士は、関所を通行する大名や幕府役人などの送迎を手配したり、関所に詰めて通行人の手形を受け取りながら出女や入り鉄砲等の確認をしたりするといった業務が主な役割でした。

ただ、幕末に向かって政情不安になるにつれ、非常時への対策を図る必要が出てきます。その結果、関所番の家（冨田家・島田家・足立家・加藤家）では、剣術を習う人が出てきました。なかでも本市上清久にある神道無念流宗家戸賀崎家に入門する人が多くみられます。早いところでは、戸賀崎家初代知道軒暉芳の門人として冨田庫之丞や足立十右衛門周正が、戸賀崎家二代喜道軒芳栄の門人として冨田貞蔵や足立金太郎正恒が、それぞれ現れました。また、芳栄と戸賀崎家三代尚道軒芳武の2人に連なる門人として、足立柔兵衛、島田一之輔、加藤李兵衛、加藤善造が現れます。

このうち、島田一之輔は、ペリーが来航した後の安政4年（1857）に、16歳で芳栄に師事しています。慶応2年（1866）には、芳武から初伝目録を授けられるなど、師の代理を務められるほどになりました。晩年には免許皆伝を授けられ、直道軒を名乗ります。

また、足立柔兵衛は、桜田門外の変があった万延元年（1860）の12月に、銭百文と半紙二帖を持参して芳栄に入門しています。その際、正八幡宮・飯綱大権現・摩利支天尊を拝礼し、巻物に姓名を認めて左手で血印した後、芳栄から稽古律を読み聞かせられ、御神酒を飲んで、入門を許されました。その後の稽古を、関所内で行うこともあったようです。

剣術を学んだ幕末の関所番士に思いを馳せて、県指定文化財の栗橋関跡を見学してみてはいかがですか。

問合せ　文化財保護課文化財・歴史資料係 鷲 内線231）

県指定文化財「栗橋関跡」